

ねん がつ  
2013年11月  
げんせい せいぶつ  
現勢・生物—No. 7

けんぱくものしりシート

# ナンブアカマツ



アカマツは北海道  
から九州まで日本  
中でよく見られる、  
私たちにとても身近  
なマツです。

ひあたりの  
よいところが  
大好きです。

むかしから、材木  
として家や寺などの  
柱や床板に利用さ  
れてきました。

たか 高さ40m、直径  
ちよっけい  
1.5mにたつする  
ものもあります。

じゅひ あかちやいろ  
樹皮が赤茶色を  
していることから  
“アカマツ”という名  
前でよばれています。

えいよう すく  
栄養が少ない  
とちでもせいちよう  
土地でも成長する  
ことができます。

あき みかく  
秋の味覚、マツタ  
ケは主にアカマツの  
林に生えます。



アカマツは、建物の柱などに使われるほか、家具やパルプ材（紙の原料）、マッチの軸木など私たちの生活に必要な、さまざまな道具に利用されてきました。なかでも、材木に使われるアカマツは、岩手県産のものが太くまっすぐで質がよいということで、むかしからよく知られていました。江戸時代、このすぐれたアカマツ材は“南部赤松”（南部地方＝旧盛岡藩領のアカマツ）という名で呼ばれるようになったということです。このナンブアカマツがほかには例のない、みごとな森林をつくっているため、1966（昭和41）年には岩手県の木にえらばれました。

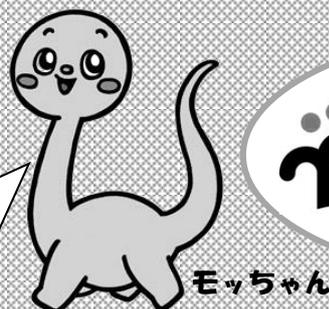
このように、私たちにとってたいへんなじみの深いアカマツですが、現在、マツの木を枯らす松くい虫の害が広がっていることが大きな問題となっています。岩手県でも、なんとか松くい虫の害をくいとめようと、多くの人たちによって今も懸命な努力が続けられています。



岩手県がたん生してから100年たったことを記念して昭和55年10月に開館した岩手県立博物館。たてものの赤茶色はナンブアカマツの樹皮の色をあらわしています。

参考にした本 『岩手百科事典』 岩手放送 1988年/ 他

来月（12月）の  
けんぱくものしりシートは  
体験学習室-7だよ！  
おたのしみに！



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34  
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214  
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>